

透析を必要とするHIV陽性者の受け入れに関する調査について

1 調査状況

(1) 調査テーマ・期間・方法について

(ア) 調査テーマ：透析を必要とする HIV 陽性者の受け入れに関する調査

(イ) 調査期間：平成 30 (2018) 年 7 月 23 日から平成 30 (2018) 年 8 月 3 日まで

(ウ) 調査方法：透析を実施している診療所及び病院、エイズ診療協力病院の合計 493 か所 (※) に、郵送にて調査を依頼。

(※) 透析を実施している診療所及び病院については、医療機関案内サービス「ひまわり」に掲載されている情報のうち、血液透析、夜間透析、腹膜透析 (CAPD) のいずれか 1 つ以上を実施している医療機関とした。なお、エイズ診療協力病院については、「ひまわり」上で透析の実施を確認できなかった病院についても調査を依頼した。

(エ) その他：平成 23 年 2 月に実施した同名の調査からの追跡調査として実施した。平成 30 年度調査で新たに加えた 3 間を除き、経年で比較している。

(2) 調査対象別の配布数・回収数及び回収率について

平成 30 年度調査では、回答数は 340 件、回答率は 69.0%であり、平成 22 年度調査時と回答数・回答率ともに大きな差はなかった (表 1)。

	平成 22 年度			平成 30 年度		
	配布数	回答数	回答率	配布数	回答数	回答率
診療所	271	193	71.2%	295	203	68.8%
病院 (エイズ診療協力病院を含む)	198	144	72.7%	198	136	68.7%
(再掲) エイズ診療拠点病院	42	38	90.5%	44	39	88.6%
不明		0			1	
合計	469	337	71.9%	493	340	69.0%

表 1 調査対象別の配布数・回収数及び回収率の経年比較

(3) 医療機関種別について (設問 1)

平成 30 年度調査における医療機関種別回答数は、平成 22 年度調査時とほぼ同じ分布となっている (表 2)。

	平成 22 年度		平成 30 年度	
	回答数	割合	回答数	割合
無床診療所	174	51.6%	186	54.7%
有床診療所	19	5.6%	17	5.0%
病院 (エイズ診療協力病院を含む)	144	42.7%	136	40.0%
(再掲) エイズ診療拠点病院	38	11.3%	39	11.5%
無回答	0	0.0%	1	0.3%
合計	337	100.0%	340	100.0%

表 2 医療機関の種別

2 透析の実施状況

(1) 外来での維持透析に対応している医療機関について（設問2）

平成22年度調査時と同様に、8割弱の施設で外来の維持透析に対応している。

医療機関種別では、エイズ診療拠点病院のうち維持透析に対応している病院の割合は、平成30年度調査では43.6%となり、平成22年度調査時と比較して9.4ポイント上昇した（表3）。

	平成22年度		平成30年度	
	回答数	割合	回答数	割合
無床診療所	156	89.7%	160	86.0%
有床診療所	17	89.5%	17	100.0%
病院（エイズ診療協力病院を含む）	89	61.8%	93	68.4%
（再掲）エイズ診療拠点病院	13	34.2%	17	43.6%
合計	262	77.4%	271	79.7%

表3 外来での維持透析に対応している医療機関の数及びその割合（医療機関種別）

※外来のみ実施している医療機関において導入・維持の両方が可能な場合は、「1導入と維持の両方」にカウントしている。

※平成30年度の合計には、医療機関種別無回答の施設の回答も含む。

(2) 夜間透析の実施の有無及び終了時刻について（設問4（3））

透析に対応している医療機関のうち、夜間透析を実施している施設の割合は平成30年度調査時で46.7%であり、平成22年度調査時より8.7ポイント減少した（表4）。

夜間透析を実施している施設のうち、終了時刻が22時以降である施設の割合は、平成22年度調査時が68.3%であったのに対し、平成30年度調査では77.5%となり、9.2ポイント上昇した（表5）。

	平成22年度		平成30年度	
	回答数	割合	回答数	割合
無床診療所	120	75.9%	111	66.9%
有床診療所	10	58.8%	7	41.2%
病院（エイズ診療協力病院を含む）	34	28.1%	24	20.0%
（再掲）エイズ診療拠点病院	3	10.3%	4	12.1%
合計	164	55.4%	142	46.7%

表4 夜間透析を「行っている」と回答した施設の数及びその割合（医療機関種別）

※設問2で「透析に対応していない」施設を除いた割合。

	平成22年度		平成30年度	
	回答数	割合	回答数	割合
無床診療所	89	74.2%	90	81.1%
有床診療所	4	40.0%	4	57.1%
病院（エイズ診療協力病院を含む）	19	55.9%	16	66.7%
（再掲）エイズ診療拠点病院	1	33.3%	3	75.0%
合計	112	68.3%	110	77.5%

表5 夜間透析を実施している施設のうち、終了時刻が22時以降である施設の数及びその割合（医療機関種別）

3 肝炎患者の受け入れについて

透析を必要とするB型肝炎（HBe抗原陽性）又はC型肝炎患者の受け入れ経験の有無について（設問5）

平成22年度調査時と同様に、透析を実施している施設のうち9割以上で、B型肝炎又はC型肝炎患者を受け入れた経験がある（表6）。

	平成22年度		平成30年度	
	回答数	割合	回答数	割合
無床診療所	152	96.2%	159	95.8%
有床診療所	16	94.1%	13	76.5%
病院（エイズ診療協力病院を含む）	114	94.2%	111	92.5%
（再掲）エイズ診療拠点病院	29	100.0%	32	97.0%
合計	282	95.3%	284	93.4%

表6 B型肝炎又はC型肝炎患者の受け入れ経験ありと回答した施設の数及びその割合（医療機関種別）

※設問2で「透析に対応していない」施設を除いた割合。

※平成30年度の合計には、医療機関種別無回答の施設の回答も含む。

4 HIV陽性者の受け入れについて

（1）透析を必要とするHIV陽性者の受け入れ経験の有無について（設問7）

HIV陽性者を受け入れた経験がある医療機関は、施設数・割合ともに平成22年度調査時から2倍以上となった。いずれの機関においても、肝炎患者に比べると、HIV陽性者の受け入れ経験がある施設は少なかった（表7）。

	平成22年度		平成30年度	
	回答数	割合	回答数	割合
無床診療所	7	4.4%	20	12.0%
有床診療所	1	5.9%	1	5.9%
病院（エイズ診療協力病院を含む）	16	13.2%	30	25.0%
（再掲）エイズ診療拠点病院	14	48.3%	20	60.6%
合計	24	8.1%	51	16.8%

表7 HIV陽性者の受け入れ経験が「ある」と回答した施設の数及びその割合（医療機関種別）

※設問2で「透析に対応していない」施設を除いた割合。

(2) 透析を必要とするHIV陽性者の受け入れ人数について（設問7）

調査日時点での HIV 陽性者の受け入れ人数については、平成 22 年度調査時より約 5.5 倍となった（表 8）。

	平成 22 年度		平成 30 年度	
	人数	割合	人数	割合
無床診療所	8	61.5%	23	31.9%
有床診療所	1	7.7%	0	0.0%
病院（エイズ診療協力病院を含む）	4	30.8%	49	68.1%
（再掲）エイズ診療拠点病院	3	23.1%	41	56.9%
合計	13	100.0%	72	100.0%

表 8 調査時点において透析を実施している HIV 陽性者の実数

(3) 透析を必要とするHIV陽性者の受け入れを開始した時期について（設問7）

平成 30 年度調査において、前回調査（平成 23 年）以降に HIV 陽性者の受け入れを開始したと回答した施設の割合は 47.1%であった。また、透析医療機関向け講習会の開始（平成 25 年）以降に HIV 陽性者を受け入れを開始した施設の割合は 35.3%であった（表 9）。

	平成 23 年以降 受け入れ開始		平成 25 年以降 受け入れ開始	
	回答数	割合	回答数	割合
無床診療所	12	60.0%	9	45.0%
有床診療所	0	0.0%	0	0.0%
病院（エイズ診療協力病院を含む）	12	40.0%	9	30.0%
（再掲）エイズ診療拠点病院	4	20.0%	3	15.0%
合計	24	47.1%	18	35.3%

表 9 HIV 陽性者受け入れ経験が「ある」と回答した医療機関の受け入れ開始時期

(4) HIV陽性者の受け入れ経験のある医療機関における今後の受け入れ意向について（設問8）

HIV 陽性者の受け入れ経験がある医療機関においては、平成 22 年度調査時と同様に 8 割弱の施設で今後も「受け入れる」と回答があった。（表 10）。

	平成 22 年度		平成 30 年度	
	回答数	割合	回答数	割合
無床診療所	5	71.4%	16	80.0%
有床診療所	1	100.0%	0	0.0%
病院（エイズ診療協力病院を含む）	12	75.0%	24	80.0%
（再掲）エイズ診療拠点病院	10	71.4%	16	80.0%
合計	18	75.0%	40	78.4%

表 10 HIV 陽性者受け入れ経験が「ある」医療機関のうち、今後も受け入れると回答した施設の数及びその割合（医療機関種別）

(5) HIV陽性者の受け入れ経験のない医療機関における今後の受け入れ意向について（設問9）

HIV 陽性者の受け入れ経験がない医療機関においては、「受け入れることは難しい」との回答割合が 47.0%であり、平成 22 年度調査時より 17.6 ポイント減少した（表 11）。

	平成 22 年度		平成 30 年度	
	回答数	割合	回答数	割合
無床診療所	106	69.3%	70	47.9%
有床診療所	11	68.8%	8	50.0%
病院（エイズ診療協力病院を含む）	60	57.1%	40	44.4%
（再掲）エイズ診療拠点病院	4	26.7%	3	23.1%
合計	177	64.6%	119	47.0%

表 11 HIV 陽性者受け入れ経験が「ない」医療機関のうち、今後「受け入れることは難しい」と回答した施設の数及びその割合（医療機関種別）

※平成 30 年度の合計には、医療機関種別無回答の施設の回答も含む。

(6) 透析を要するHIV陽性者の受け入れ経験がない医療機関が、今後も「受け入れることは難しい」と回答した理由について（設問10）

医療機関種別で回答割合の高い3項目については、割合の高いものから順に以下のとおりであった（表 12）。上位3項目については、平成 22 年度調査時と同じであったが、順序については、平成 22 年度調査時と2番目と3番目の選択肢が逆になった。

平成 22 年度(n=177)		平成 30 年度(n=119)	
理由	割合	理由	割合
HIV 陽性者専用のベッドが確保できない	75.1%	HIV 陽性者専用のベッドが確保できない	68.1%
透析中に急変した際のバックアップ体制が得られるのか心配	58.8%	HIV 陽性者への対応手順が整理されていない	53.8%
HIV 陽性者への対応手順が整理されていない	52.0%	透析中に急変した際のバックアップ体制が得られるのか心配	48.7%

表 12 HIV 陽性者受け入れ経験が「ない」医療機関が、今後「受け入れることは難しい」と回答した理由（全体）

(7) HIV陽性者を受け入れるに当たり、東京都やエイズ診療拠点病院に期待する役割について（設問15）

医療機関種別で回答割合の高い項目について、割合の高いものから順に以下に挙げる（表13）。平成22年度調査時と同様に、エイズ診療拠点病院における様々な体制の整備が求められている。

なお、「HIV暴露時の対応マニュアル」については、平成9年からマニュアルを作成し、必要に応じて改訂しているため、平成30年度調査においては、当該選択肢を削除している。

平成22年度(n=337)		平成30年度(n=340)	
理由	割合	理由	割合
HIV暴露時におけるエイズ診療拠点病院での対応（予防投薬など）の体制整備	68.8%	HIV暴露時におけるエイズ診療拠点病院での対応（予防投薬など）の体制整備	74.4%
透析中に陽性者が急変した際のエイズ診療拠点病院のバックアップ体制の整備	68.2%	透析中に陽性者が急変した際のエイズ診療拠点病院のバックアップ体制の整備	70.9%
HIV暴露時の対応マニュアル	64.1%	透析医療スタッフを対象としたHIV陽性者の透析に関する研修会の開催	61.8%

表13 HIV陽性者を受け入れるに当たり、東京都やエイズ診療拠点病院に期待する役割（全体）

5 肝炎患者の受け入れ経験の有無とHIV陽性者の受け入れ意向について

(1) 肝炎患者の受け入れ経験別の HIV 陽性者受け入れ経験について

B型肝炎又はC型肝炎患者（以下、「肝炎患者」という。）の受け入れ経験の有無とHIV陽性者受け入れ経験の有無別に、透析に対応している医療機関を分類した（表14）。

HIV陽性者受け入れ経験ありの医療機関のうち、平成22年度調査時は全て、平成30年度調査でも殆ど全ての医療機関において、肝炎患者の受け入れ経験がある。

	平成22年度	平成30年度
	回答数	回答数
肝炎患者受け入れ経験あり・HIV陽性者受け入れ経験あり	24	50
肝炎患者受け入れ経験あり・HIV陽性者受け入れ経験なし	258	234
肝炎患者受け入れ経験なし・HIV陽性者受け入れ経験あり	0	1
肝炎患者受け入れ経験なし・HIV陽性者受け入れ経験なし	13	16
肝炎患者受け入れ経験無回答・HIV陽性者受け入れ経験なし	0	3
肝炎患者受け入れ経験無回答・HIV陽性者受け入れ経験無回答	1	0
合計	296	304

表14 肝炎患者受け入れ経験の有無・HIV陽性者受け入れ経験の有無別の回答数

(2) 肝炎患者の受け入れ経験別の HIV 陽性者を今後「受け入れることは難しい」と回答した医療機関の割合

肝炎患者の受け入れ経験があるがHIV陽性者受け入れ経験なしの医療機関のうち、今後HIV陽性者を「受け入れることは難しい」と回答した施設の割合は、4（5）とほぼ一致する（表15）。

一方、肝炎患者及びHIV陽性者両方の受け入れ経験がない医療機関における今後のHIV陽性者の受け入れ意向については、「受け入れることは難しい」と回答した施設の割合は、平成22年度調査時と比べて28.3ポイント減少した。

	平成22年度		平成30年度	
	回答数	割合	回答数	割合
HIV陽性者受け入れ経験なし全体	177	64.6%	119	47.0%
肝炎患者受け入れ経験あり・ HIV陽性者受け入れ経験なし	166	64.3%	109	46.6%
肝炎患者受け入れ経験なし・ HIV陽性者受け入れ経験なし	11	84.6%	9	56.3%

表15 HIV陽性者受け入れ経験なしの医療機関において、今後HIV陽性者を「受け入れることは難しい」と回答した割合（肝炎患者受け入れ経験別）

(3) 肝炎患者の受け入れ経験別のHIV陽性者を今後「受け入れることは難しい」と回答した理由

肝炎患者の受け入れ経験があるが HIV 陽性者受け入れ経験なしの医療機関のうち、今後 HIV 陽性者を「受け入れることは難しい」と回答した理由の最上位回答については、4 (6) と同様であった (表 16)。

一方、肝炎患者及び HIV 陽性者両方の受け入れ経験がない医療機関において、今後 HIV 陽性者を「受け入れることは難しい」と回答した理由については、平成 30 年度調査では「HIV 陽性者の受け入れに対し、医療スタッフの理解が得られない」が一番多かった。

	平成 22 年度		平成 30 年度	
	理由	割合	理由	割合
HIV 陽性者受け入れ経験なし 全体	HIV 陽性者専用のベ ッドが確保できない	75.1%	HIV 陽性者専用のベ ッドが確保できない	68.1%
肝炎患者受け入れ経験あり・ HIV 陽性者受け入れ経験なし	HIV 陽性者専用のベ ッドが確保できない	73.5%	HIV 陽性者専用のベ ッドが確保できない	69.7%
肝炎患者受け入れ経験なし・ HIV 陽性者受け入れ経験なし	HIV 陽性者専用のベ ッドが確保できない	90.9%	HIV 陽性者の受け入 れに対し、医療スタッ フの理解が得られな い	66.7%

表 16 HIV 陽性者受け入れ経験なしの医療機関において、今後 HIV 陽性者を「受け入れることは難しい」理由の最上位回答及びその割合 (肝炎患者受け入れ経験別)

平成 30 年度調査において、今後 HIV 陽性者を「受け入れることは難しい」理由として「HIV 陽性者の受け入れに対し、医療スタッフの理解が得られない」を回答した割合について、肝炎患者受け入れ経験の有無で分類し、比較した (表 17)。

肝炎患者及び HIV 陽性者両方の受け入れ経験がない医療機関における回答割合は、肝炎患者の受け入れ経験がある群と比べて 31.8 ポイント高かった。

	平成 30 年度
	割合
HIV 陽性者受け入れ経験なし全体	37.0%
肝炎患者受け入れ経験あり・HIV 陽性者受け入れ経験なし	34.9%
肝炎患者受け入れ経験なし・HIV 陽性者受け入れ経験なし	66.7%

表 17 HIV 陽性者受け入れ経験なしの医療機関において、今後 HIV 陽性者を「受け入れることは難しい」理由として「HIV 陽性者の受け入れに対し、医療スタッフの理解が得られない」と回答した割合 (肝炎患者受け入れ経験別)

6 東京都の事業や透析医療ガイドラインについて（設問12から設問14）

平成30年度調査では、東京都で実施している講習会の参加経験等についての設問を3個追加した。

（1）東京都主催の透析医療機関向け講習会の参加経験について

東京都主催の透析医療機関向け講習会については、全体の21.4%の施設で参加経験が「ある」一方で、全体の19.1%の施設で「講習会があることを知らなかった」と回答があった（表18）。

	平成30年度		
	ある	ない	講習会があることを知らなかった
無床診療所	24.1%	60.2%	15.1%
有床診療所	11.8%	58.8%	23.5%
病院（エイズ診療協力病院を含む）	19.2%	55.0%	24.2%
（再掲）エイズ診療拠点病院	27.3%	60.6%	12.1%
全体	21.4%	58.2%	19.1%

表18 都主催の透析医療機関向け講習会の参加経験について（医療機関種別）

（2）透析医療ガイドラインにおけるHIV感染予防の項目の認知度について

上記講習会の中で説明している透析医療ガイドラインにHIV感染予防の項目があることを知っているかどうかについては、「知らない」と回答した施設は全体の16.1%であり、同ガイドラインを「施設内に常備している」と回答した施設は50.0%であった（表19）。

	平成30年度		
	知らない	読んだことがある	施設内に常備している
無床診療所	18.1%	32.5%	47.6%
有床診療所	23.5%	41.2%	35.3%
病院（エイズ診療協力病院を含む）	12.5%	31.7%	55.8%
（再掲）エイズ診療拠点病院	0.0%	27.3%	72.7%
全体	16.1%	32.9%	50.0%

表19 透析医療ガイドラインにHIV感染予防の項目があることの認知度（医療機関種別）

(3) 「HIV 感染防止のための予防服用マニュアル—曝露事象発生時緊急対応用—」の認知度について

東京都が作成している「HIV 感染防止のための予防服用マニュアル—曝露事象発生時緊急対応用—」を読んだことがあるかどうかについて、読んだことが「ある」の割合は 36.5%である一方、「マニュアルがあることを知らなかった」は 16.1%であった（表 20）。

※エイズ診療協力病院を含めた都内病院等に配布。都内診療所には冊子は配布せず、都のホームページ（<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/koho/kansen.html>）にて公開している。

	平成 30 年度		
	ある	ない	マニュアルがあることを知らなかった
無床診療所	34.3%	51.8%	12.0%
有床診療所	35.3%	47.1%	17.6%
病院(エイズ診療協力病院を含む)	40.0%	38.3%	21.7%
(再掲) エイズ診療拠点病院	60.6%	21.2%	18.2%
全体	36.5%	46.4%	16.1%

表 20 都作成「HIV 感染防止のための予防服用マニュアル—曝露事象発生時緊急対応用—」を読んだ経験